

山下先生 ヘアレニツキャンプの皆様

暑い日々が続きますが、変わらずたくさんのご家庭の支援に助けられていることと思います。

こうやって手紙を書きながら振り返ってみると支援当初の苦しく辛い思い出がよみがえってきます。

次男が小1の5月頃より登校を渋るようになり母子登校。そして行き渋りは徐々に増え

夏休み前には保健室で気持ちを切り替えなければ”自分のクラスへ行けない状況”となっていました。

そして、そんな状況のまま夏休みへ……。

「夏休み明けはどうなるんだろう。」「このまま学校へ行けなくなるのでは？」そう思うと言いたくない危機感に胸がしめつけられ、もう家族だけでの解決は難しいと暗く落ち込む日々でした。

「お腹が痛い」「足が痛い」「学校が怖い」

そして不安からか食後に朝食を嘔吐してしまう日さえもありました。

そして始業式... 体調不良を理由に次男は休んで
しまいました。が、先生と相談していた通りの対応を
落ちついてあることで翌日からは元気に登校できるよう
になりました。(日曜日の登校となり)1年生の息子には77kgの
荷物について「学校まで一諸に持っていくか?」と余計な
ことを言ってしまったにもかかわらず、息子は「自分で持てるから
いい!」としっかりと自分で学校へ向かいました。

あれから2年... 何度かお休みしてしまう日もあり
ましたが、その度に家庭教育で学んだことを積み重ね
息子たちは、見違えるように成長しています。

運動があまり好きではなくインドアだった長男は、
中学で運動部に入り毎日の朝練に週末も頑張っています。
私から見ても忙しく大変そうなのに本人は楽しい!というので
この1日が来るとは... と嬉しい思いです。

次男も学校に行くだけで精一杯の日々から少し
余裕が出来たのか放課後に友達と遊ぶおりに
なりました。

一人で悩んでいる時は、無理をさせず休ませての方がいいか？
それとも無理をしてでも登校させるべきかあらかず
何が正解なのかさっぱりわからないという状況でした。
しかし、夏休みの様子を家庭ノートに書くことで、私の
先まわり対応・家のルールをその都度かえるなどのせさ、
そして何より私の心配性な性格が子供を圧迫して
しまっていることに気付かされました。まずは先生のアドバイス
により、自分のことは自分である。家のルールを親もしっかりと
守ること、子供たちのアピールに反応しすぎないことから
対応を変えていきました。先生からもこの期間は
我慢の時期であると言われていたが、「黙る」「見守る」
「失敗を経験させる」ということがこんなにもしんどいのかと、
毎日疲れ果てるという日々でした。
それでも頑張れたのは、山下先生が一諸に頑張ってく
れたから。そして何より大切な子供たちのことを思うと
自分が変わりたいと思ったからです。

それでも涙をふき私と学校へ向かう息子。

学校までの道を黙々と歩き進める息子。

別れぎわの不安そうな息子の顔。ワオになつたばかりの

息子が色んな思いを胸いっぱい、懸命に

登校する姿が切なく、家事をしていても、仕事に行っても

私の頭から離れませんでした。

↑
息子に元気に学校へ行してほしい!」ただそれだけの思いで

私は、医療機関や公共の施設・民間の支援機関など

色々と調べ始めました。その時に思ったのは、

息子を連れて病院を転々とすることは避けたいという

ことでした。自分はダメな子、人とは違うんだとは

思って欲しくなかった。そうして出逢ったのがヘアレヅキコフ。

初めて山下先生とTelでお話しをした時は、

とにかく先生のアドバイスを信じて頑張ろうと前向きに

なれた私がいきました。

サッカーでもボールが来ても逃げるような息子でしたが
今ではチームの柱となり、上級生に果敢に体をぶつけて
いく姿を見ると逞しくなったなぁとしみじみと思います。
とは言え、先生もご想像がつくかと思いますが
子供たちの相変らぬところも、勿論あります。
でも子供たちの相変らぬ部分は親の見方を変え
てやれば良いと今では思えます。

先日、子供たちが嬉しいことを言ってくれました。
父さんと母さんは、僕たちに任せてくれるんだね。
だから自己責任だし出来るだけ頑張るよ。ありがとう」と。
出来るだけと付け加えるあたりが長男らしいですが、
次男も「確かにね」と。

先生に出会い家庭教育を学んでいなかったら今の
幸せな日々はなかったでしょう。これからも忘れず
良い時も悪い時も家族で乗りこえて行きたいと
思います。山下先生、本当にありがとうございました。
また親の会でお会い出来る日まで……。